

みくりや（御厨）第4号

国立駿河療養所広報誌



国立駿河療養所の理念

私たちは入所者の皆さまが安心して療養生活のできる環境の提供につとめます。

国立駿河療養所の基本方針

- 一 入所者の皆さまの人格を尊重します
- 一 安全で快適な生活ができるようつとめます
- 一 安心して受けのことのできる医療を提供するようつとめます
- 一 ハンセン病の正しい知識をひろめ地域との交流をめざします

目 次

所長あいさつ 新年のご挨拶	2
看護課紹介	3
国立駿河療養所開所70周年記念式典開催	4
診療放射線部門のご紹介	6
こちら駿河探検隊	8

卷頭言

新年のご挨拶

所長 福島 一雄

平成 28 年年頭に際し、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年の 6 月 10 日国立駿河療養所は開所から 70 年の記念すべき日を迎え、全国各地からの参列者および所内入所者など、200 名を超える方が列席して記念式典が行われました。今回の「みくりや」第 4 号は、開所 70 周年記念式典や関連行事の特集号であり、また平成 28 年の年頭を飾る新年号でもあります。この中では、この 1 年間の駿河療養所の歩みの一部を紹介するものになることと思います。



駿河療養所の 70 年の歩みは、奇しくも戦後の日本の歩みと重なり合います。敗戦の虚脱から、力強く立ち直ってきた戦後の日本ですが、駿河療養所も終戦直前、全国唯一の傷痍軍人らい療養所として開所以来、延べ 1000 名を超す入所者が施設の中で日々の生活を営み、辛苦を共にしてこられました。多いときには 400 名を超えた入所者も、現在 62 名となり、平均年齢は 83 歳を超えるようになりました。入所する新規のハンセン病罹患者はいない中、施設の将来に対しても誰もが不安を感じます。平成 22 年に作成した国立駿河療養所将来構想案に示されたように、70 年を節目として今後は施設を地域に開放し、地域と共生していく時代を創世していくねばなりません。70 年の歴史の中で培ってきた医療やケアを財産として継承しながら、地域の医療機関と連携して残り続ける、高齢者の緩和ケアを基軸とした施設になることを目指して、この 1 年間準備を続けてまいりました。平成 27 年 10 月からは、病棟および外来(内科、整形外科)にハンセン病ではない一般患者の方々を受け入れる体制となり、地元のテレビ・新聞といったメディアにも紹介されています。まだ不備が残る箇所があるのは否めませんが、地域から来ていただける患者の方々に対して、職員は丁寧な心を持ち、医療やケアを提供していきます。そして、入所者を最後まで支え続けるとともに、地域医療にも貢献できる施設に生まれ変わっていきたいと思います。

一方、社会や地域に今なお残るハンセン病に対する根強い偏見や差別に対しては、今後も継続した啓発活動や社会との交流を必要としています。幸いに、近年は研修活動や施設見学に、地域や職場から多くの方が訪れていただくようになり、訪問者は毎年増え続けています。春の桜見物、夏の納涼祭等の行事には、地域の皆様も楽しみにして療養所を訪れています。今後ますます、より広い領域の多くの方々に、気軽に訪れていただける施設また医療機関となるよう努力を重ねていきます。

今回発行される「みくりや」が、より多くの皆様と駿河療養所をつなぐ、素晴らしい架け橋をなることを願ってやみません。



看護課紹介

総看護師長 田代 美奈

看護課は、看護師・准看護師・介護員約100名で構成されています。ハンセン病後遺症、高齢化による慢性疾患をもち療養生活を送っている62名のハンセン病回復者の方々の、診療および生活支援を行っています。入所者の居住舎はそれぞれの障害の程度に応じて、不自由者棟、一般舎に分かれています。

私達は、入所者の方々にとっての生活の場を大切にしたいと考えており、お花見、七夕、納涼祭、神社際、クリスマス、食事会、カラオケ大会などの行事を通して、単調になりがちな療養生活を楽しく過ごしていただけるように関わっています。また、室内の環境整備を行い、特に移乗・移動介助の中では転倒防止、食事介助の場面では誤嚥予防に努めています。入所者の方の生活全般を見守るためには、看護師、介護員だけでなく多職種との連携はとても重要です。合同カンファレンスでは看護課が中心となり、活発に意見交換を行い、情報の共有を行っています。

看護課職員は自分の時間を活用し、所内外の研修参加はもちろん、多くの者が通信教育や看護師国家試験、介護福祉士国家試験へ挑戦しています。また7月には認知症看護認定看護師が誕生しました。昨年度は、ハンセン病療養所医療従事者海外研修（フィリピン）へも参加しました。今年度は「エンドオブライフケア」を大きなテーマとして研修をしていく予定です。広い視野を持ち、自分のWLBも考えながら、入所者の方一人ひとりに向かい、「その人らしさ」を大切に看護・介護していきたいと考えています。



国立駿河療養所開所70周年記念式典開催 福祉室長 小林 昌美



平成27年6月10日水曜日11時より所内講堂にて、国立駿河療養所開所70周年記念式典が厳粛な雰囲気の中、盛大に執り行われました。

昭和20年6月10日に1人目の入所があり、この日を開所記念日とし70年の時が過ぎたという事であります。この間、昭和31年の471名が入所者数のピークであり、平成27年6月には64名となりました。

当日は良い天気に恵まれ、入所者も半数の30名程度が列席し、来賓の方々を含め総勢250名の式典となりました。

当日を迎えるにあたり、尽力戴いた入所者の自治会である駿河会、準備頂いた関係各位、公私共お忙しい中多くの来賓の皆様にお集まりいただき、紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

式典は所長挨拶、来賓からのお言葉、入所者代表挨拶、功労者表彰、職員永年勤続者表彰、所歌斉唱と順々と進行し、無事終了しました。

午後は場所を近郊ホテル大広間に移し懇親会の場を設け、それぞれが食事をしながら歓談し、余興を楽しみました。

この一週間後である6月17日水曜日に駿河会の尽力により開所70周年記念公演とし「大月みやこ歌謡ショー」を所内講堂にて開演しました。

この記念公演についても多くの関係者により当日を迎えられたことはいう事は言うまでもありません。



この歌謡ショーの観客は入所者を基本としておりますが多くて50名程度と予想し、付添の職員を見込んでも100名程度の観客数になると予想しました。会場である講堂の観客収容人数が300名であるため、地元自治体、商店等へポスターを配布し会場を埋めるべく行動しました。

当日は、前売りチケットを販売している訳でも無く観客動員数の把握が困難であり、もし会場に入りきれない程の人気がきたらどうしようと肝を冷やしながら動向をみておりました。次から次へと観客が増え最終的にはマックス320名程度の超満員で落ち着きました。

公演は大変すばらしく、大いに盛り上がり皆満足した一時を過ごしました。大月みやこさんも大変喜んでいたと後に関係者から伺いました。

こうして一連の開所70周年記念行事を無事終了したところであります。

最後に、この記念行事で配慮したことは、開所70年の経過を祝すということではなく、隔離された方々の心情を察すれば、70年の時が経ったという節目の行事ということです。

祝辞を挨拶、祝電を電報、祝賀会を懇親会等々の配慮をしました。

平均年齢83歳の入所者の方々から「80周年式典は無くこれが最後の式典だと思っている」という言葉を聞いております。

私も退職し開所80周年記念式典の時には職員として居ません。

入所者自治会である駿河会も存続しているかわかりません。

施設側が汗をかき、是非、開所80周年記念式典を実施して頂きたいと思っています。



診療放射線部門のご紹介

診療放射線技師長 横山 恵太

診療放射線部門は技師長1名で業務を行っています。主な検査内容は一般撮影、CT、歯科撮影、病棟ポータブル撮影、透視撮影、骨密度測定です。骨密度測定は超音波を用いて測定をしますが、他の検査はすべてエックス線を用いて撮影します。

平成22年4月から医療用画像管理システムが稼働したことにより治療棟診察室・病棟・センターにてモニター診断が可能となり、従来のフィルムは不要になりました。これにより過去の検査はもちろん、他施設で検査した画像もCD-Rから画像サーバーに取り込むことにより直ぐに比較読影が行えるようになりました。



歯科撮影



モニター診断システム



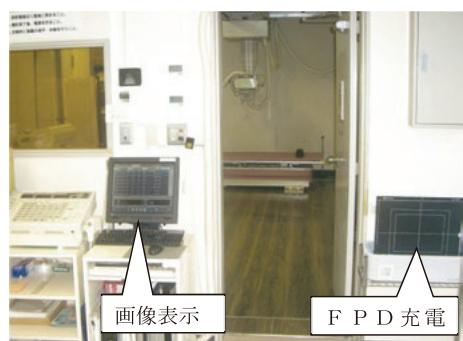
X線透視装置

平成24年3月に一般撮影とポータブル撮影に使用する無線式FPD（フラットパネルディテクタ）を導入しました。従来のCR（コンピューテッド・ラジオグラフィ）では大型の読み取り装置を用いらなければ画像表示できませんでしたが、無線式FPDではその場ですぐに画像表示ができ、検査時間が著しく短縮しました。特に病棟での中心静脈カテーテルや胃管挿入後、ベッドサイドで確認が行えるので入院患者さんのご負担が軽減しました。

ポータブル撮影



(無線式FPD使用)



無線式FPDシステム

また、平成 25 年 2 月にはエックス線 CT が 16DAS マルチスライスに更新されました。CT はエックス線管と検出器が人体の周りを回転しながらエックス線量を計測しますが、16DAS マルチスライスでは 1 回転で 16 画像の撮影ができ、1 回の息止めで胸部や腹部の検査が行えるようになりました。しかも、より詳細なデータが得られるため検査終了後、輪切り画像のみならず 3D 画像や任意の断面画像も作ることができます。

平成 26 年 4 月には遠隔読影システムを更新、読影報告書が PDF 形式で画像サーバーに取り込めるようになりました。これにより診断用モニター上で読影報告書や添付画像が鮮明に見えるようになりました。



16 DAS マルチスライス CT



CT (足部 3D 画像)

最近では、どのようなお食事が食べやすいのかを検査する『嚥下造影』や、CT で病巣の位置を確認しながら病理生検を行う『CT ガイド下生検』も行うようになりました。嚥下造影は造影剤を混ぜたお食事やお飲み物をエックス線透視下で飲食していただき、飲み込んだお食事がスムーズに流れていくかを透視で確認する検査です。この透視画像を動画で記録する装置も昨年、新規購入いたしました。26 年 7 月に検査を開始し現在まで 11 例実施しております。

このように、診療放射線部門の画像診断システムは入所者様の診断と治療に大いに役立っております。現在、このような最新の高額医療機器を近隣の医療施設にも利用していただくための準備をしています。既に一部の近隣病院からは、CT や骨密度測定のご依頼をいただき、数例実施しました。地域住民の皆様に「国立駿河療養所は地域住民にとっても大切な施設」と言つていただけるように・・・その一翼を担いたいと考えております。



こちら駿河探検隊



こんにちは！このコーナーでは
駿河療養所の各所を紹介して
隠れた魅力を伝えていきたいと思います。
今回は栄えある第一回ということで
『駿河療養所から見える富士山』をご紹介します
当所は富士のふもとにあり、施設各所から
富士山を望むことができます。
いつもそこに佇む富士山ですが天気や季節、
時間によってその見え方は変わるので
こちらで暮らす入所者さんとの話題のタネになり、
晴れていれば「富士山がキレイですね。」
と話しかければ笑顔で「そうだね、キレイ。」
とお返事を、曇つていれば
「今日は富士山が雲に隠れていますね。」
と話せば入所者さんから
「あら、私がいつも見つめているから
恥ずかしかったのかしら？」と
洒落の聞いたお返事を頂けたりします。
入所者さんのお部屋からも見えるため
「ウチから見える富士山が一番！」
と言う方もいらっしゃいますが、
私は入所者さんと見る富士山が一番だと思います。

隊長 タッキー



▲療養所からみえる「富士山」



▲療養所内、恩師公園より「紅葉と富士山」



職員募集（看護師・介護員）

入所者の皆さんに関わることで、ケアの
原点を見つめ直すことが出来ます。ぜひ、
一緒に働きましょう。

お問い合わせは、総看護師長室までお願
いします。

発行責任者：福島 一雄

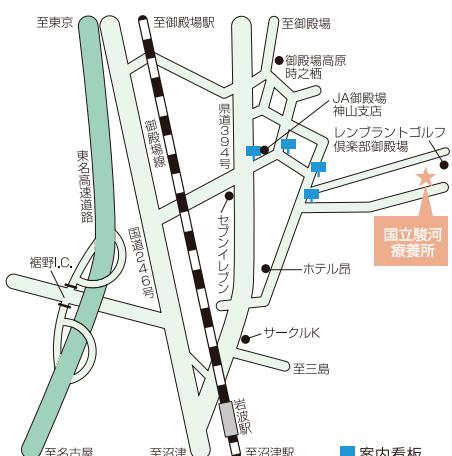
発 行 所：国立駿河療養所

住 所：〒412-8512 静岡県御殿場市神山1915

T E L：0550-87-1711

F A X：0550-87-1921

発 行 日：平成28年3月



案内看板